

[dōnik]

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 80 décembre 2007 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

「日仏修好150周年は地方分権を焦点に」ル・リデック大使 2007全国日仏協会の集い（11月9日・大使公邸）

駐日フランス大使夫妻主催、今年の全国日仏協会の集いは11月7日夜東京南麻布の大使公邸で開催され、本会から豊田会長と井土副会長が出席しました。集いには大使館や各地日仏協会の関係者のほか、今年はアリアンスフランセーズなど全国のフランス文化組織や在日フランス人会の代表ほか多くのフランス人が参加、盛大な会合となりました。開会のあいさつに立ったル・リデック大使は、2008年は日仏修好150年の記念すべき年で、さまざまなプロジェクトを予定している。政府レベルの大きな事業もあるが、地方を焦点にした草の根の交流を重視したい。そのためには全国の日仏協会と在日フランス人のネットワークが必要。また日仏協会としてもお隣の県など、横のつながりも大切にしてほしい、などとのべられました。また具体的な提案として、日仏両大使館共同で150周年を記念するロゴマークをつくること、来年7月14日の革命記念日を全国各地で工夫をこらして盛り上げることなどが紹介されました。

ル・リデック大使が近く離任へ

またこのスピーチの終わりにあたって大使は「数週間後に」離任されることを明らかにするとともに「新しい大使も方向性は同じ」とのべ、会場から驚きと「残念」の声が広がりました。



フランス大使館ホーム・ページより www.ambafrance-jp.org/

大相撲、サルコジ政権… グットマン先生、帰国前に大いに語る

7年前三重大学に赴任されて以来、津の生活に親しみ、ご研究のかたわら三重日仏協会の活動にも深くかかわってこられたチエリー・グットマンさんは、来春から1年間リヨンの東アジア研究所に「長期海外研修」のためいったん帰国されることになりました。この日本通のフランス人政治学者に〈done〉編集部はインタビューを申し込み、興味深い（温かな風貌と語り口に比して少し辛口の）お話をうかがいました。紙面の都合で、ご趣旨はできるだけ生かしつつ一部省略して紹介します。

日本への関心は格闘技から

一在日13年、三重に来られて7年とうかがいましたが、当地の印象はいかがですか？

GUTHMANN. 三重は奈良、京都も近く地理的にいい。それと南部の紀州方面が特に好き、日本のいい面が残っている。夏にはよく紀北町あたりに泳ぎにいきます。景色も水もきれいだ。

一研究活動も日本、奥様も日本人、流暢な日本語、先生の日本への関心のそもそものきっかけは？

G. なんでしょうね。私が7,8歳のとき父の友人がなぜか日本人のグループを受け入れてお世話をしたことがあるのですが、父も手伝ってアルザス地方をバスで案内した。それが日本との初めての出会いだったが、彼らはやさしくて小さい私を可愛がってくれ、日本語も少し教えてくれたり、いい印象でした。それがきっかけかなあ。

その後、高校生のころブルース・リーにあこがれて格闘技のカンフーを習いたかったのですが近くに道場がなく、ちょうど合気道の道場が町にできてそこに通うことにしました。そして徐々に合気道が好きになり、エクス政治学院へ行っても続けました。卒論を書くときの指導教官が日本に興味のある方で空手や柔道もやっていた。さらに私の日本への関心が強まり、卒論のテーマも「武士道」でした。

一近くにカンフーの道場がなかったことが、われわれには幸いでした。その後は？

G. その後、合気道だけではなく、日本文化全体に興味をわき、日本を研究しようかと思って大学院時代から日本語に取り組みました。ところが文法などは理解しても、しゃべったり、聞き取ったりするのがなかなか難しく、これは日本に行かなければ、と決心したわけ。将来の仕事のことも考慮に入れてですが、そして日本で就職し、日本人と結婚し…

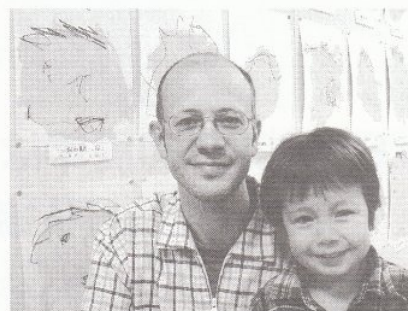
一お子さんにも寛武（ひろむ）君と日本の名前をつけられて。ところで先生は相撲のファンでかなりお詳しいようですね。

ひいきは朝青龍、早く復帰してほしい

G. 日本に来てまもなく大相撲を観に連れてもらって、貴乃花、曙の時代でしたが、大きな小錦と廊下ですれ違ってびっくりしたりして…すぐ好きになりました。

一いま相撲は、外国人力士の活躍や、朝青龍問題、暴力事件など、いろいろ問題を抱えていますが、先生の見方は？

G. 私のいちばんのひいき力士は誰だと思いますか？朝青龍です。彼への協会の重い処分やバッシングは納得がいきません。出場停止は1場所ではなかったのではないかと。彼は一人横綱として長くがんばって疲れていた。巡業もサボりたい気持ちがあったのかも。やっ和白鳳が横綱になったので、彼に任せてモンゴルに帰った。そしてサッカーの親善イベント、たしかチャリティだった。あとき映像を撮られることを気づかなかったのは愚かだったが、彼自身、どうしてあんなに責められるのかわからず大ショックだったと思う。だいたい彼は日本で嫌われ者の傾向があった。乱暴だとか、気合が入りすぎとか。でも格闘技なのだから気合はありすぎるぐらいがいい、むしろ日本人力士には足りないぐらいだ。朝青龍は土俵態度なども随分努力してよくなってきているし、ぜひ早く復帰してほしい。



いま相撲のことで重大な問題は、一般の人々に関心がなくなってきたこと。関心が高まるのはスキャンダル報道のときだけだ。NHKの実況中継は別として、メディアの相撲の取り上げ方が極端に少ないのが原因ではないか。野球やフットボールばかり、大リーグの日本人選手の動向にはあんなにスペースを割くのに。朝青龍の7場所連続優勝という大記録のときにもそれにふさわしい量の報道はなかった、ところがスキャンダルは過熱報道でした。それと相撲人気がいまひとつなのは、外国人力士が強いのをあまり見たくない、という気分があるのではないか。それより日本人選手の外国での大活躍が見たい。なにかナショナリスト的な気持ちがかかなり働いていますね。

サルコジ大統領はポピュリスト、新自由主義者、右翼的政策

—では、政治学がご専門の先生の本業の分野に入って…サルコジ新大統領のもとでの最近のフランスの政治状況についてコメントしてください。大統領が反対派を閣僚に入れたとか、対米関係とか、最近の鉄道のストなどが日本でも話題になっていますが。

G. 政治学者が100%客観的であるということは難しく、私の個人的な意見が入ることをまずお断りしなければなりません。私が今回の大統領選挙で支持したのはジョゼ・ボヴェという左翼の候補でした。(ロワイヤル候補の)社会党は左とは言ってもイギリスの労働党と似て政策はかなり右よりです。だからサルコジが何人かの元社会党員を大臣などに引き抜くことができました。ウーヴェルチュール (ouverture) と称して政権の門戸を野党にも開くというのですが、私にいわせれば「なんちゃってウーヴェルチュール」、ごまかしなんですよ。

要するに彼の特徴はポピュリストということで、その点、小泉さんにも似てるかな。人気の出そうなことを次々とやる。ウーヴェルチュールだってもともとは中道の「民主連合」UDFのバイルー党首が提唱して人気を得ていたのを突然頂戴してしまった。そんな人物なのです。それに付いていく社会党の連中も情けないが。

もう一つサルコジの特徴は、これも小泉さんに似ているが、メディアの利用がうまいというか、そればかりだ。テレビには毎日顔を出し「よくやってる」というポーズ。実際やってることは富裕層に有利な新自由主義の政策と、右派が主張している外国人締め出しなどの政策だ。フランスにいる外国人が家族を呼び寄せるとき、DNAを調べたり、とりわけフランス語が話せないと受け入れないという法律など右翼的な人権侵害だと思う。

—最近日本でも大きく報じられた鉄道のストライキは終結したのですか？

G. 今回のストの課題は年金問題でした。フランスも日本と同様に年金財政が苦しい。これまで普通は40年働いてもらえるのを、鉄道の運転士などきつい職場は35年でもらえるような特例があったのですが、いまは自動化などでそれほど仕事はきつくないからと、その特例を廃止しようとした。これに反発する労組の闘争だったわけです。この特例廃止で浮く財源などたいしたことはないのだが、サルコジは「楽をしてる一部の特権はけしからん」という世論を、バカな世論だが、利用して人気をあげたといえます。ストは敗れ、サルコジは勝ちました。いまのフランスの大衆の雰囲気、メディアの状況を考えると、最初からこの勝負はわかっていました。でもこれで年金制度が改善されたとはいえません。困った大統領です。シラクもそんなに好きじゃなかったが、ブッシュのイラク戦争には反対していて、外交政策はよかった。それさえもない。

—最後にいまの日本で感じられることは？

なにもかもワイドショー化しているような気がする。国会の証人喚問もそのひとつ。耐震偽装、汚職問題などでもテレビで視聴者が関心をもっている間に喚問をやりたいのではないか。警察の捜査を待つと時間がかかって関心が薄れてしまうので。でもフランス人の感覚では、あれは警察の領域であって、国会の役目ではないと思うのだが。時津風親方の処分についても、刑事事件として結論が出ていないのにクビはおかしい。「世間をお騒がせした」という理由は日本的ですね。

—いろいろと鋭いご意見ありがとうございました。今度はご家族いっしょにリヨンに行かれますか。

G. 12月に2番目の子どもが生まれますので、4人で参ります。

11/18 「ヌヴォーを楽しむ会」に150人

ワインショップ・うちやま主催、三重日仏協会協賛、恒例の「ヌヴォーを楽しむ会」は、フランスの新酒解禁日の翌日11月18日津都ホテルで開催され、県内外各地から約150人の愛好者が参加しました。今年は本命のボジョレー・ヌヴォー6種を含めて赤、白、ロゼの新酒12種類が提供され、とりわけルイ・ジャドー社のボジョレー3リットル瓶（ジェロボアム=jéroboam）が開栓されると、グラスを手にした参加者が長い行列をつくり注いでもらっていました。本会会員でソムリエ・ワインアドバイザーの長田康二（主催者）さんの話によれば、今年のヌヴォーはいつもに増して繊細でバランスがよく、皆さんの評判も上々とのことでした。



'08, 1/11 小林史子・合唱団「うたおに」フォーレを歌う

フォーレの名曲「レクイエム」（初演版）ほか、古楽の演奏と指揮で高名な宇田川貞夫氏の指揮で、標記の地元のすぐれた演奏家たちによって披露されます。また昨年、県立美術館のミュージアム・コンサートでフォルテピアノを演奏し好評だった井谷佳代さんがオルガンを担当します。

津市教育委員会主催・津市文化振興事業「郷土シリーズ」

1月11日（金）午後6時30分開演

津リージョンプラザお城ホール

前売 1,500円 当日 2,000円

演奏曲：フォーレ作曲 「レクイエム」「ラシーヌ賛歌」ほか

三重の写真家・森武史さんがパリで展覧会「熊野修験」

熊野山中の「奥駆け」など厳しい修験者の修行に特に同行を許されて撮影を続けてきた写真家の森武史さん（玉城町）が、大型の布にプリントした作品をパリ11区の会場で展示します。修験道の行者たちの迫力ある貴重な映像はパリで大きな反響を呼ぶものと期待されます。

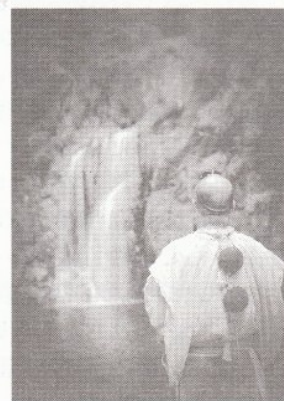
2月14日（木）～23日（土）日、祝除く

パリ日仏文化センター・エスパスハットリ 3F

8, Passge Turquetil 75011

入場無料 三重日仏協会・後援

なおこれに先立ち1月14日から2月10日まで伊勢市大世古1丁目の「伊勢和紙ギャラリー」でも、同じ内容の展覧会が開催されます。



3/21（金） 井上二葉ピアノ独奏会（後援事業）

— 没後50年を迎えるフロラン・シュミットをめぐって —

詳細は同封のチラシをご覧ください